

「歯を守れ！予防歯科命を懸けた男 日吉歯科診療所 熊谷崇の挑戦」読書感想文

医療法人すみれ おおくぼ歯科クリニック 歯科衛生士 山本 奈津佳

「プロフェッショナル」、「カンブリア宮殿」と熊谷先生の予防歯科を拝見しました。今回は竹田晋也さん著書の書籍という形で、再び熊谷先生の予防歯科の思いを読ませて頂きましたのでその感想文を書いていきたいと思います。

“虫歯になったり、歯抜けることを、当然のことだと思いませんか。それは違います。人間にとって、本来それらは、とっても稀有なことなんです。正しい方法で予防していれば、生涯、縁のない話なんです。” 熊谷先生のこの言葉を聞いてはっとしました。今までは痛くなってから行くのが当たり前の歯医者。削る、詰めるの治療が当たり前で歯科衛生士はその治療のお手伝い。時々クリーニングをするくらいかな…。熊谷先生の予防歯科に出会う前はそうのように考えてました。

でも間違っていました。生涯、う蝕や歯周病で痛い思いをすることなく自分自身の歯で食事ができたらこんなに幸せなことはないですし、自分が歯科衛生士のライセンスを持っている以上人々の口腔の健康を守っていく義務があると感じました。予防歯科において“歯科衛生士”は“主役”という言葉が私の頭を離れません。患者さん一人一人の口腔の状態を把握して、う蝕や歯周病から口腔の健康を守る。予防歯科において重要となるところが歯科衛生士には任されているんだと感じました。それからは患者さんのう蝕を探すという視点からう蝕になりそうな点を探し、ケアして予防法を一緒に考えるという視点に変わりました。う蝕や歯周病にならないこと、予防こそが最も価値あるものだという事を地域の人たち、日本の人たちに伝えていきたい。今、私はそう思います。